

2026年3月期 第1四半期決算概要

- 売上高は為替の影響もあり減収だが、営業利益は主に欧州の建築用ガラス事業の改善により増益。通期純利益への転換に向けて、順調なスタート
- 米国関税政策等による不確定要素はあるが業績予想は変更なし。引き続き利益改善に向けたあらゆる施策をグループ横断で実施
- 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の下、収益性、キャッシュ創出力を高め、財務基盤の改善に注力

1. 2026年3月期 第1四半期決算

- 売上高は2,102億円（前年同期比△62億円、△2.9%）、営業利益は69億円（同+21億円、+44.3%）で、減収ながら増益。売上高は為替の影響などもあり減少したが、営業利益は欧州の建築用ガラス事業が前年から大きく改善したため増加
- 個別開示項目は2025年6月9日公表の通り、ベトナムの建築用ガラス製造子会社であるベトナムフロートグラス社の当社持分を譲渡したことに伴う利益計上を含め、純額で17億円の収益（同+15億円）
- 金融費用（純額）は68億円と、前年同期の60億円から8億円増加。持分法による投資利益は13億円（同+2億円）と前年同期から改善
- 法人所得税は通期の見積実効税率に基づき計算した結果、23億円（前年同期は26億円の費用のマイナス）となり、これにより当期利益は5億円（前年同期比△22億円、△82.9%）、純損失*は△2億円（前年同期は24億円の純利益）
- フリー・キャッシュ・フローは、運転資本の季節的な変動により264億円のマイナス（前年同期比+53億円）。自己資本比率は為替の影響により9.9%（前期末比△0.5pt）。有利子負債は5,325億円（同+77億円）

<損益計算書および財務指標>

(億円)	4-6月期（3か月）		
	2025年 3月期	2026年 3月期	差異
売上高	2,164	2,102	△ 62
営業利益	48	69	21
営業利益率	2.2%	3.3%	+1.1pt
個別開示項目（純額）	2	17	15
個別開示項目後営業利益	49	85	36
金融費用（純額）	△ 60	△ 68	△ 8
持分法による投資利益	11	13	2
持分法投資に関するその他の利益（△損失）	-	△ 4	△ 4
税引前利益	0	27	27
当期利益	27	5	△ 22
純利益（△損失）*	24	△ 2	△ 26
EBITDA	175	198	23
フリー・キャッシュ・フロー	△ 317	△ 264	53

*親会社の所有者に帰属する当期利益（△損失）

(億円)	2025年 3月末	2025年 6月末	増減
総資産	10,329	10,015	△ 315
親会社の所有者に帰属する持分	1,081	996	△ 84
自己資本比率	10.5%	9.9%	△ 0.5pt
有利子負債	5,248	5,325	77

<各事業の概況>

建築用ガラス事業	売上高は為替の影響により減少したが、営業利益は欧州においてフロート窯停止による需給改善に伴い販売価格が改善、またコストも改善し大幅に増加。ベトナムフロートガラス社の当社持分の譲渡を完了。太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調継続。米国の新設備の立ち上げ費用が発生したがほぼ計画通り
自動車用ガラス事業	為替影響もあり減収。コスト上昇の影響を受けたが補修用ガラスの改善により、営業利益は前年度並み。欧州、日本、北米で新車用の販売数量および価格が伸び悩むが、補修用で販売数量/構成および価格が改善。ドイツやイタリア等、欧州での生産体制の見直しは計画通り進捗
高機能ガラス事業	売上高および営業利益は一部製品の販売構成の影響を受け減収減益。ファインガラス事業の一部製品の販売が下期にずれ込む

(億円)	2025年3月期	2026年3月期	前年同期比
	4-6月期	4-6月期	
売上高			
建築用ガラス事業	902	892	△ 10
自動車用ガラス事業	1,136	1,098	△ 38
高機能ガラス事業	124	110	△ 14
その他	2	1	△ 1
売上高合計	2,164	2,102	△ 62
営業利益			
建築用ガラス事業	33	67	33
自動車用ガラス事業	25	24	△ 2
高機能ガラス事業	20	13	△ 7
その他	△ 31	△ 34	△ 3
営業利益合計	48	69	21

2. 2026年3月期 業績予想

- 業績予想は変更なし。
引き続き米国関税政策による不確定要素はあるものの、欧州市場は下期以降緩やかに改善し通期純利益への黒字転換を予想
- 主要通貨は2025年3月期実績より円高を見込む
- エネルギーや原材料価格は上昇し、インフレ傾向を反映した人件費等その他コスト増加も継続
- グループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を推進

<業績予想>

(億円)	2025年3月期 実績		2026年3月期 予想		差異	
	上期	逸期	上期	逸期	上期	下期
売上高	4,224	8,404	4,200	8,500	△ 24	96
営業利益	102	165	100	310	△ 2	145
個別開示項目(純額)	△ 0	△ 52	10	10	10	62
個別開示項目後営業利益	102	112	110	320	8	208
金融費用(純額)	△ 126	△ 253	△ 130	△ 270	△ 4	△ 17
持分法による投資利益	25	55	30	60	5	5
税引前利益(△損失)	2	△ 85	10	110	8	195
当期利益(△損失)	△ 34	△ 135	△ 20	40	14	175
純利益(△損失)*	△ 39	△ 138	△ 30	20	9	158

*親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)

3. 米国関税政策の影響

米国関税政策の影響



ガラス製品は基本的には地産地消。先行きが不透明だが、引き続き政策動向を注視しつつ価格転嫁等により対応

1. 売上高に対する影響

(1) 建築用

- ・ 米国内では経済先行き不透明に伴う投資控え、需要減少の可能性
- ・ 太陽電池パネル用ガラスは米国関税政策の動向を踏まえた取引先の生産状況の影響を受ける可能性、一方で競合の中国製品には高い税率の適用

(2) 自動車用

- ・ 新車用
米国向けの自動車生産に対する需要減少の影響を受ける可能性
- ・ 補修用
メキシコで生産する一部製品の価格上昇に伴う需要減少の可能性、一方で高い税率が適用される競合の中国製品との関税額の差が販売価格上昇に寄与

2. コストに対する影響

- ・ 原燃材料コストが増加する可能性はあるが、価格転嫁により軽減

4. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の進捗状況

「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況



欧州経済減速の影響を大きく受けた前年から回復傾向。引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力

		2027年3月期 目標	2030年3月期 目標	2026年3月期（4-6月期） 実績
収益性 (P/L)	営業利益	640億円		69億円：欧州建築用ガラス事業の改善により前年同期比で増益
	営業利益率 (ROS)	7%	10%以上	3.3%：前年同期比で1.1pt改善
▼				
キャッシュ創出 (C/F)	フリー・キャッシュ・フロー	270億円		△264億円：運転資本の季節的変動により、マイナス
▼				
財務基盤の安定化 (B/S)	有利子負債	4,420億円		5,325億円：前期末から77億円増加
	自己資本比率	15%		9.9%：前期末から0.5pt低下

<お問い合わせ> (報道関係等) 広報部 (お問合せページ) <https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us>